



コース 13

天王川の古い堤ぞいにひしめく表通りと裏通りの家並み

オススメ

地形マニア
「ブラリ」町歩き好き



※ 津島神社
疫病厄難除けで
知られる
全国天王総本社

※ 本町筋
古い町並みの残る通り
津島の旧市街地を構成

※ 天王川公園
天王祭や藤まつりの
舞台である憩いの公園

- スタート
↓630m
- ①小之座通り(蔵の道)
↓270m
- ②天王通り
↓235m
- ③浦方町
↓365m
- ④金町～橋詰
↓490m
- ⑤薬師堂
↓230m
- ⑥百体通り
↓420m
- ⑦十王堂
↓240m
- ゴール
全長約 2880 m

津島のまちは起伏に乏しい濃尾平野にあります。じっくりと歩くと高低差があることが分かります。この高低差はかつての天王川の流れによるものです。室町時代の『宗長手記』に「此所のおのゝ堤を家路とす。」と書かれたように津島のまちは天王川の堤に沿って家々が建てられ、こうした堤は川の流れによって形作られ変わっていきました。そして堤沿いには古くから津島に居を構えた「町方(まちかた)」が、少し低く、しかし広い堤の周辺には新興の町人「地方(じかた)」が住みました。マニアックな津島の地形をブラリ歩いて、まちの歴史を感じましょう!

作成：小路めぐりマップ策定部
佐藤信良 高木ゆみこ 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三 岩崎勝明 橋本建夫
山田香織 永井直樹

① 小之座通り(蔵の道)



蔵が多く立ち並びます。表通り(本町筋)より1メートル以上低く、両者の間は坂道になっています。

② 天王通り



駅から続いた天王通りはここで急に坂になっています。これは、この先が昔の天王川の中だったことを意味します。

③ 浦方町の縁の下



江戸時代後期の狂歌に「うらがたは縁の下でも舞がまへ」と歌われたように、浦方町は天王川の西堤にあたり、東側との高低差が家の縁の下で舞ができるほどありました。

④ 金町～橋詰町



ここは北側から見ると西側へ坂になっているのがよくわかります。これは旧天王川の中と東堤の境です。北側のマンションはかつて「巴座」という芝居小屋でした。

⑤ 薬師堂



牛頭天王の本地仏は薬師如来であるため、牛頭天王をお祀りする津島天王社ゆかりの寺・堂の多くは薬師如来をお祀りしていました。このお堂もその一つです。

⑥ 百体通り



現在の町五丁目(旧称中島)と今市場をつなぐ道です。かつてこの辺りに百体仏を祀ったお寺がありました。今市場方面に低くなっています。

⑦ 十王堂



閻魔大王に代表される十王をお祀りしています。江戸時代中頃の津島の地図には津島五ヶ村にそれぞれ十王堂が描かれていますが、昔の姿を今に伝えているのは、ここ今市場の十王堂だけとなっています。



〔津島町空撮 大正15年(1926年) ※津島市立図書館所蔵〕